

第三章 15) サン・マルチーニョ耕地 (パウリスタ線マルチーニョ・ブラード駅)

*木多誠二、笠戸丸第1回移民、鹿児島県、妻ツヨは池上トミ（渡辺トミ・マルガリーダの叔母）、又池上恒則、金之助は木多の構成家族で池上トミの叔父だが年下。（「ドナ・マルガリーダ・渡辺」55ページ）

*豊軍喜、1912年5月、巖島丸（第3回）熊本県下益城郡、サン・マルチーニョ耕地配耕、後年ペナポリス在住。（「ブラジル日系紳士録」483ページ）

*宇野直、1913年5月、第2雲海丸（第5回移民）、熊本県菊池郡、7歳で渡伯、最初サン・マルチーニョ耕地に配耕、以後転移の数々、モジ・ダス・クルゼス郡曙植民地に落ち着く。（「熊本県人発展史」415ページ）

*本田亀八、1913年 同上 兄寅松と配耕され共に協力苦勞する。（同584ページ）

*小原市蔵、1913年 同上 熊本県下益郡、コロノ生活を送るが、当時カフェーの大暴落に見舞契約を終えて出る時は丸裸同然。（「活躍する日系人」）

*前田岩次郎、1913年、帝国丸（第7回移民）熊本県宇土市、夫婦で配耕。（同561ページ）

*打山一郎、1913年 同上（「平野25周年史」）

*亀井満、1913年 同上、熊本県下益城郡、サン・マルチーニョ耕地就労、後アマゾニア産業研究所農事部に就職、1941年ミナス州ベロ・オリゾンテ市郊外にて果樹、蔬菜経営する。（「ブラジル日系紳士録」878ページ）

*重岡傳太、1913年 同上、福岡県浮羽千年村出身、同耕地に義務農年就労後、2転してピラ・ボンフィン駅付近で5ヶ年働き利益でカタンツーバ駅付近に農地を購入。長男の義雄はリベイロン・プレート市生。後年パラナ州トレスバラス移住地に入植する。（「トレスバラス移住地開拓20周年史」512ページ）

*南瀬泰三、1913年10月、若狭丸（第9回移民）熊本県八代郡、（「熊本県人発展史」743ページ）

*藤山辰作、1914年5月、帝国丸（第10回移民）熊本県飽記郡、サン・マルチーニョ耕地に配耕、以後移転の数々、モジ・ダス・クルゼース、ピンドラマ植民地に落ち着く。（「熊本県人発展史」399ページ）

*古庄秋吉、1914年5月、帝国丸、熊本県菊池郡平真城村出身、サン・マルチーニョ耕地に長き6ヶ年にわたって就労。後年トレスバラス移住地フィゲイェーラ区に入植する。（「トレスバラス移住地開拓20周年史」264ページ）

*堀ノ内秀範、1918年、若狭丸、鹿児島県始良郡、サン・マルチーニョに就労、後年リンス市在住。（「ブラジル日系紳士録」474ページ）

*朝枝栄登、1918年、若桜丸、山口県岩国市、マルチーニョ・ブラード耕地就労、のちサン・パウロ市郊

外タイパスに移転ジャガイモ作り。（「ブラジル日系紳士録」926 ページ）

*愛甲蓮生、同駅ピラチニンガ耕地で2ヶ年就労後、ジャポチカバール駅タンキ耕地で働くこと1ヶ年、同駅サンタ・リッタ耕地で借地農綿作5ヶ年。後年パラナ州トレスバラス移住地に入植する。

（「トレスバラス移住地開拓20周年史」773 ページ）

*富永太三、1934年6月、アラビア丸、農業に従事後、リンス駅第3アリアンサに移りコーヒー栽培に従事後クルゼイロ・ド・エステに落ち着く。（「ブラジル日系紳士録」862 ページ）

*宮坂佐久間、1934年8月、リオ・デ・ジャネイロ丸、名古屋市北区深田町、農業に従事、1945年リベイロン・プレート市移転現在に至る。（「ブラジル日系紳士録」730 ページ）

（特記）

グアタバラ移住地の創設に当たって地元で反対意見があり、在留移民数名から日本の外務大臣宛に反対の陳情書が提出され、底なし沼があるとか、マラリヤで多勢死んだとか、地味が悪いとか、地元の声として訴えたので、日本政府も踏み切りかねていたところ、当時の日本人会長宮坂佐久間氏と副会長の広野久吉氏が賛成、日本の大使を地元で招いて実地を見せ、地元官民の声を聞かせ歓迎会を終えた夜脳溢血を起こして倒れ、以来15年間病床にあった（1975年12月28日死亡）。その子長男一夫氏が父の遺志を継がれ、グアタバラ入植者が入植当初まだブラジル事情に疎いころ、病気、出産、その他色々に折衝、法律問題など一貫して後援あらゆる面で移住者の面倒を見られ有難いものでした。



宮坂佐久間（中央）、喜久栄夫妻と子息夫人、左端から田草川兵馬、白石健次、近藤安雄各氏
（1963年5月1日）

*大久保豊次郎、1934年10月、アリゾナ丸、富山県婦負郡、サン・マルチーニョに配耕、コロノ生活1年更にここに踏み止まって借地農3年。（「活躍する日系人」45ページ）

*高柳栄次郎、1934年 同上 （同45ページ）

*広野久吉、1935年1月、リオ・デ・ジャネイロ丸、三重県渡会郡吉津、サン・マルチーニョ配耕、以来30年同地で営農、後年リベイロン・プレート在住。（「ブラジル日系紳士録」）

*坂本利三、1935年1月、リオ・デ・ジャネイロ丸、三重県南牟婁郡出身、サン・マルチーニョ入耕綿作に従事、転じてパラナ州グアピラマに落ち着く。（「ブラジル日系紳士録」）

*東茂輔、1935年1月、ブラジル丸、三重県渡合郡、サン・マルチーニョ耕地に配耕、1農年コロノ生活後、転じてオリンピアに移り綿作りで12年。（「活躍する日系人」44ページ）

*小山田吉郎、1936年10月、モンテビデオ丸、福島県西白河郡出身、サン・マルチーニョに配耕、さらにパウルー郊外で綿作りに従事後年トレスバラ在住。（「ブラジル日系紳士録」）

*熊田米吉、1936年10月、モンテビデオ丸、福島県西白河郡大沼村出身、サン・マルチーニョ耕地に配耕され義務農年後、パウルー市郊外で綿作に従事する。後年パラナ州トレスバラス移住地カビウーナ区の服部農場コーヒー栽培6年契約を請負った後、この地に入植する。
（「トレスバラス移住地開拓20周年史」456ページ）